

本会記事

2019年度春季大会報告

2019年度春季大会は、6月4日（火）～6日（木）の3日間、東京工業大学すずかけ台キャンパス大学会館において行われました。講演発表件数は、受賞記念講演6件、特別講演8件、招待講演8件、一般講演137件の合計159件で、3日間の参加者数は約470名でした。

東京工業大学すずかけ台キャンパスでの大会は初めてでした。最寄り駅、すずかけ台からは近いものの、関東圏から日帰りで大大会に参加されている方々には、少しアクセスが悪かったようです。しかし、緑豊かなキャンパスは、朝から小鳥のさえずりが聞こえ、鶉のような大きさの鳥を発見することもできました。季節の花が咲いている道を抜けて見えてくる会場は、通称加藤山の麓にあり、受付の横のラウンジからテラスに出れば、爽やかな青空の下、会談して頂けるスペースもあり、比較的ゆっくりとお過ごし頂けたのではないかと考えております。また、お店の沢山ある町田駅にも30分程で出られ、都会の喧騒を離れた場所での大会は、いつもとは趣は違いますが、良い会場だったように思います。

今回の講演大会では、8つの講演特集が開催されました。特集の詳細については8月号に総報としてまとめて掲載しますので、ご一読下さい。3日間を通して、各会場では、立ち見が出る状況で、どの会場も熱心な発表、活発な討論が行われました。各講演特集の更なる展開が楽しみです。また、今回はありませんでしたが、企画セッションのテーマを広く会員の方から募集しておりますので、トピックス等を提案頂きますようお願いいたします。今後もこれらを通して、講演大会の盛り上げを図っていきたいと思いますので、会員各位の一層のご協力をお願いします。



大会初日には、春季大会恒例となっている日本粉末冶金工業会の工業会賞受賞記念特別セッションが行なわれました。当協会と日本粉末冶金工業会の連携強化の一環として行なわれているこのセッションでは、受賞製品の展示も行われ、大会の参加者及び工業会招待者で盛況でした。

工業会セッションに引き続き、今年度は筑波大学の鈴木義和先生に特別講義：実践・科学技術論文の書き方、「事前準備、執筆、日英翻訳のコツ、投稿、査読、掲載まで」のご講演を頂きました。この講義は一昨年より春季大会の折に行っており、今回も100名弱の方に聴講頂き、論文を書く上での決まり事、論文としての文章の書き方、判りやすいグラフの書き方等講義頂きました。今後も機会を設けて、分かりやすい論文の書き方をお伝えしていきたいと思っております。会員の皆様には、講義を参考に協会誌「粉体および粉末冶金」へ論文を是非ご投稿ください。

また、企業からの出展による展示会も例年通り開催され、今回は6社の出展がありました。今後も会員と出展企業に役立つ場を設けたいと思っております。

○協会賞授賞式

2019年度協会賞授賞式は、総会終了後に行われ、55名の方が受賞されました。受賞者の内訳は、研究功績賞3名、技術功績賞3名、研究進歩賞3件9名、技術進歩賞4件12名、論文賞3件15名、技能賞13名でした。林会長から各々の受賞者に賞牌が手渡され、会場の参加者から大きな拍手で祝福されました。今回ご受賞された方々の業績を含むご紹介は、会誌本号ならびにホームページに掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

○懇親会

大会初日の18時から東京工業大学大学会館カフェテリアモトテカコーヒーにおいて懇親会が行われ、北本仁孝実行委員の開会の辞に始まり、菅野了次実行委員長と林哲也会長のご挨拶、協会賞の受賞者を代表して研究功績賞を受賞された尾崎由紀子様からお礼のご挨拶がありました。そして最後に、東京工業大学副学長の水元哲弥様のご挨拶と元会長の高野幹夫様の乾杯のご発声で賑やかな懇親の場がスタートしました。今回は160名の方にご参加頂き、会場に入りきれぬのかと心配しましたが、無事に収まり、食事を進めながら参加者の皆様が親交を深め、情報交換等をして頂く機会となりました。



今年度の秋季大会は、10月22日（火）～24日（木）に名古屋大学豊田講堂で開催致します。名古屋での開催は6年ぶりとなりますが、名古屋大学での開催は初めてとなります。本号に講演募集を掲載しておりますので、会員の皆様の多くのご発表とご参加をお待ちしております。
(吉田 泰子)